



工業簿記

【第7回】経費・製造間接費の計算

経済学部 山根陽一

1

- 前回は、労務費について、予定賃率を使用した際の会計処理と原価計算期間と給与計算期間が異なる際の会計処理について解説し、恒例の穴埋め、勘定連絡図を作成をしてもらいました。
- 作成してもらった問題は、Webにアップしているので、トレーニングの問題に飽きたら、是非ご利用ください。といっても、正しく作成されているかは保証できかねます。

前回の振り返り

2

- さて、本日は経費についてのお話です。
- 経費の計算については、第3回でこんな設例を使用しました。

7. 経費8,000円を現金で支払った。

経費	8,000	現金	8,000
----	-------	----	-------

- それ以外にも経費について、お話した部分がありますが、思い当たるでしょうか？

経費の計算

3

- 材料費の計算に出てきた“棚卸減耗”です。
 - “棚卸減耗”は間接経費でしたよね。

- 2kg消えた！ ※予定価格:200円/kg

棚卸減耗費	400	材料	400
-------	-----	----	-----

- ↑ こんな仕訳をしました。
- さて、この2つの仕訳をみて、何か違和感を感じないでしょうか？
- もう少しみてみましょう。

経費の計算

4

① 経費8,000円を現金で支払った。

経費	8,000	現金	8,000
----	-------	----	-------

② 外注加工賃8,000円を現金で支払った。

外注加工賃	8,000	現金	8,000
-------	-------	----	-------

③ 工場の減価償却費を8,000円を計上した。

製造間接費	8,000	減価償却累計額	8,000
-------	-------	---------	-------

• ①～③の仕訳に違和感を感じませんか？

経費の仕訳

5

① 経費8,000円を現金で支払った。

経費	8,000	現金	8,000
----	-------	----	-------

- これは“経費”勘定を使用して仕訳する方法です。
- 経費はすべて“経費”で処理し、その後、直接経費は仕掛品に、間接経費は製造間接費に振替えます。

経費の仕訳(経費勘定)

6

- ①で支払った経費のうち、2,000円は特注のデコレーション(直接経費:外注加工費)にかかった経費であった。

仕掛品	2,000	経費	2,000
-----	-------	----	-------

- ①で支払った経費のうち、6,000円は電気代等の間接的にかかった経費(間接経費)であった。

製造間接費	6,000	経費	6,000
-------	-------	----	-------

- OK?
- では、②の外注加工賃の仕訳に移ります。

経費の仕訳(経費勘定)

7

② 外注加工賃8,000円を現金で支払った。

外注加工賃 8,000 現金 8,000

- これは経費に関する具体的な諸勘定を使用する方法なのです。ここでは、“経費”勘定はできません。
- 経費はすべてその経費の内容を表す勘定科目で処理し、その後、直接経費は仕掛品に、間接経費は製造間接費に振替えます。

仕掛品 8,000 外注加工賃 8,000

経費の仕訳(諸勘定)

8

- では、3つ目の仕訳をみていきます。

- ③ 工場の減価償却費を8,000円を計上した。

製造間接費	8,000	減価償却累計額	8,000
-------	-------	---------	-------

- この仕訳、②の方法で作成するとと、こうなります。

減価償却費	8,000	減価償却累計額	8,000
-------	-------	---------	-------

製造間接費	8,000	減価償却費	8,000
-------	-------	-------	-------

- そう、経費に関する諸勘定を飛ばして、ダイレクトに仕掛品や製造間接費に計上しているのです！

経費の仕訳(ダイレクト)

9

- 「外注加工賃8,000円を現金で支払った。」
を例にみていきます。

① 経費勘定を用いる方法

経費	8,000	現金	8,000
仕掛品	8,000	経費	8,000

② 経費の諸勘定を用いる方法

外注加工賃	8,000	現金	8,000
仕掛品	8,000	外注加工賃	8,000

③ 経費の諸勘定を用いない方法

仕掛品	8,000	現金	8,000
-----	-------	----	-------

経費の仕訳(まとめ)

- 経費の仕訳について見てきましたが、実際の支払いについては賃金と同様に、支払期間と原価計算期間が異なる場合があります。
- 例えば、家賃等で次月分も含め、前払というケースもあります。
- では、前月未払、当月未払、前月前払、当月前払がある場合のケースを計算してみましょう。

経費の計算

11

経費	当月 支払額	前月		当月	
		前払額	未払額	前払額	未払額
特許権 使用料	200,000	23,000		15,000	
支払 家賃	450,000		15,000		12,000
通信費	300,000	20,000			28,000
保管料	350,000		25,000	30,000	
修繕費	400,000	10,000	5,000	7,500	8,000

経費の計算

12

- 特許権使用料
 - $200,000\text{円} + 23,000\text{円} - 15,000\text{円} = 208,000\text{円}$
 - 当月支払 + 前月前払 - 当月前払 = 当月消費
- 支払家賃
 - $450,000\text{円} - 15,000\text{円} + 12,000\text{円} = 447,000\text{円}$
 - 当月支払 - 前月未払 + 当月未払 = 当月消費
- 通信費
 - $300,000\text{円} + 20,000\text{円} + 28,000\text{円} = 348,000\text{円}$
 - 当月支払 + 前月前払 + 当月未払 = 当月消費

経費の計算

13

- 保管料
 - $350,000\text{円} - 25,000\text{円} - 30,000\text{円} = 295,000\text{円}$
 - 当月支払 - 前月末払 - 当月前払 = 当月消費
- 修繕費
 - $400,000\text{円} + 10,000\text{円} - 5,000\text{円} - 7,500\text{円} + 8,000\text{円} = 405,500\text{円}$
 - 当月支払 + 当月前払 - 前月末払 - 当月前払 + 当月未払 = 当月消費
- 以上、経費の計算でした。

経費の計算

14

- では、次に製造間接費についても終わらせてしまいたいと思います。さあ、思い出してください。製造間接費については、第3回でこんな設例を使用しました。

10. 製造間接費21,000円(材:5,000円、労:10,000円、経:6,000円)を製品の製造時間を基準にして仕掛品に配賦する。

- 今月はケーキ製造に40時間、パフェ製造に30時間かかった。

仕掛品(🍰)	12,000	製造間接費	21,000
仕掛品(パフェ)	9,000		

製造間接費の計算

15

- さて、この間接材料費、間接労務費、間接経費からなる製造間接費、借方が出そろうのは...
- 月末ですよね(実際であれ予定であれ)。
- ということは...
- 月末にならないと計算できない。
- どうする？
- 予定を使う！

製造間接費の計算

16

- 先ほどの例だと、製造間接費の配賦率は、実際の製造間接費21,000円を実際作業時間70hで割った300円/hでした。
- 予定配賦率の計算は、1年間の予定製造間接費を1年間の予定配賦基準数値で割って計算します。例えば...
- 予定製造間接費(年間):300,000円
- 予定配賦基準数値(年間):960h
- $300,000円 \div 960h = 312.5円/h$

製造間接費の計算

17

- 今月はケーキ製造に40時間、パフェ製造に30時間かかった。

- 消費の仕訳

仕掛品(🍰)	12,500	製造間接費	21,875
仕掛品(パフェ)	9,375		

- で、実際発生額が21,000円(材:5,000円、労:10,000円、経:6,000円)だった場合
- 実際:21,000円に対し、予定配賦額が21,875円になります。

製造間接費の計算

18

- ズれてますよね。

- 差異勘定で処理しましょう。

製造間接費 875 製造間接費配賦差異 875

※製造間接費が予定より875円少なく済んだという意味

- 差異勘定は月末に売上原価に振替えます。

製造間接費配賦差異 875 売上原価 875

※予定で計算した売上原価より875円安く済んだという意味

製造間接費の計算

19

- それでは、今日も自ら数字を埋めて、問題を完成させましょう。
- 今日は経費の見越し・繰延べと製造間接費差異の仕訳についてです。勘定連絡図も埋めてみてください。

本日の作業

20